

「平成30年度に実施した仕事」の振り返りシート

記入日 平成 31 年 4 月 9 日

仕事の内容	栄養指導事業（男性の料理教室）			
担当部署・課長名	健康	課	保健係	係 課長名 志村明子

この仕事は、どの【施策】の課題を解決するための手段ですか。	施策番号	2 - 1	-
【施策名】 保健・医療の充実	総合計画書 (ページ)	47	

予算名	款 4	衛生費	項	保健衛生費	目	保健衛生総務費	事業 4	栄養指導事業費
-----	-----	-----	---	-------	---	---------	------	---------

1 この仕事の目的	① 誰（何）を対象にしていますか。 市内在住成人男性（おおむね65歳未満の方）	① ①の対象数や量を、あらわすもの（対象指標） → 40歳～64歳までの市民（男性）年齢別人口統計表 平成30年4月1日現在の対象年齢人口
	② ①をどのような状態にしたいのですか。[簡潔に] 市内在住成人男性へバランスのとれた食事の基本、調理の基礎、知識を広める。食を通して、生活習慣病予防の大切さを広める。	② ②の状態になった数・量をあらわすもの（成果指標） → 教室参加者
	③ そのために何をしましたか。 市内在住成人男性に向けて、栄養バランスのとれた献立の組み合わせ方、料理の基本に基づいた調理実習。生活習慣病予防についての講話を行った。	③ ③をどのくらい行いましたか（活動指標） → 年2回

2 指標の推移		単位	平成28年度実績	平成29年度実績	平成30年度実績	平成31年度目標	平成32年度目標
	対象指標	①の数値	人	14,956	15,057	12,886	/
	成果指標	②の数値	人	17	14	前期：8人 後期：7人（子ども10人）	/
	目 標	②の目標値	人	40	40	40	/
		目標設定の考え方	1回の教室の定員が20人のため				
活動指標	③の数値	回	2	2	2	/	

3 経費	事業費（実績）		円	1,048,803	1,233,195	1,269,387	※人件費の所要人数は、基本的には「人」で表わしますが、一時的な仕事については時間数での表示も可とします。その場合単位を「時間」に変更してください。 人件費（再任用職員以外） 年間単価は、8,244,000円 時間単価は、4,200円 で計算してください。 【算出根拠】平成29年度決算数値。（退職手当組合負担金、共済費も含む。）
	財源	一般財源	円	563,803	590,000	669,387	
		特定財源	円	485,000	643,195	600,000	
		(うち受益者負担)	円				
	人件費 (目安)	所要人数(再任用以外)	人		0.1	0.1	
		所要人数(再任用)	人				
		職員人件費(再任用以外)	円		825,300	824,400	
事業費+人件費		円	1,048,803	2,058,495	2,093,787		

この仕事における市の裁量 市の裁量は大きい

4 環境変化	この仕事の開始時期（開始年度）、何を目的に開始していますか。 老人保健法（昭和58年施行）の保健事業の一つである健康教育として、生活習慣病の予防、その他の健康に関する事項について、正しい知識の普及を図るために昭和60年頃から事業を開始した。
	開始当初と比較し、状況の変化はありますか。 上記の「老人保健法」は、平成20年「高齢者の医療の確保に関する法律」に内容を改正、改称され、保健事業として行ってきた健康教育等は、平成14年に制定された「健康増進法」第17条に基づく事業として位置づけられ、生活習慣病の予防その他の健康に関する事項について、正しい知識の普及を図ることにより自らの健康は自らが守るという認識と自覚を高め、健康の保持増進を図るために引き続き実施している。

仕 事 の 内 容	栄養指導事業（男性の料理教室）			
担当部署・課長名	健康	課	保健係	係 課長名 志村明子

5 市民 等 の 意 見	この仕事に関して、平成30年度中に寄せられた市民・議会等の意見、また、市民・サービス利用者等の実態やその意識について			
	<サービス利用者の実態や意識> ・家でも作ってみたい。 ・調理の基礎がわかった。 ・継続してほしい。 ・子供と参加し楽しくできた。子供との時間がもてよかった。子供に丁寧に教えてあげられた。			
6 市民 協 働	(1)市民協働の取組を行いましたか。ある場合は、取組手法の種類から番号を選択。（複数回答可）			
	取組みは無い	取組手法	【取組手法の種類】 ①共催 ②実行委員会・協議会 ③事業協力 ④事業委託 ⑤補助・助成 ⑥情報提供・情報交換（広報媒体： ） ⑦後援・場の提供 ⑧その他（ ）	
	(2)平成31年度に向け、さらに適した協働の形態とするための「考え」又は「気付いた」点			
7 課 題	(1)「平成29年度に実施した仕事」の振り返りシート 「7 課題（2）」の内容			
	市内在住成人男性のリピータが多い、65歳以下の参加が少ない。			
	(2)(1)の課題解決に向けた取組や、事務改善など、平成30年度に実施したこと。			
	30年度後期では、子育て世代の市内在住成人男性を対象に、親子で参加する教室（小学生とその父か祖父を対象）を実施した。子どもとの参加を促す事で、30～50代の男性参加者（新規者）が増え、健康教育にも取り組めた。また、男女共同参画担当部署（地域振興課）と連携し、参加者に対し、男性の家事への参加に関連して男女共同参画についてのPR資料を配布した。			
8 今 後 の 方 向 性	(3)(2)を踏まえた今後の課題			
	・PR,テーマの工夫 ・土日の教室開催 ・自主グループ作り			
	(1)仕事の方向性（「7 課題（3）」の課題解決に向けた具体的な改革・改善案など）			
	・若い世代、両親学級に参加の男性への参加勧誘を行うことの検討 ・今年度同様、父親や祖父が子や孫で参加できる教室を実施する。 ・男女共同参画担当部署である地域振興課との共同企画の検討			
今 後 の 方 向 性	(2)上記(1)の改革・改善案を実現するために、克服すべき問題点、必要な調整・準備等			
	・土日に事業ができるよう勤務体制を整える。 ・成人男性と一緒に来る子どもが小学生対象の場合、小学校を通して宣伝できるかの検討 ・地域振興課との調整			
	(3)改革・改善案による期待成果			
上記(1)の改革・改善案を実施することで、成果面と経費面で現状からどのように変わりますか。				
成果	成果を向上させる。		経費	仕事の経費は維持する。